

小川芋銭研究センター

— 7年間の足跡 —



小川芋銭研究センター外観

市では、郷土の偉人である日本画家小川芋銭の研究・顕彰のためにさまざまな事業を行っています。そこで事業の中心である小川芋銭研究センターの北畠学芸員がこれまでの事業について紹介します。

牛久市に、小川芋銭研究センターが誕生したのは、平成20年7月で、今年で7周年を迎えました。最初の1年間は、「草汁庵」の1室を借用し、調査研究顕彰業務にあたりました。翌年度からは、移転後の牛久消防署西部出張所を再利用・改装し、今に至っています。振り返れば、現在までに当センターは、マスコミに約80数回も取り上げられ、徐々にではありますが認知度を上げていきました。一方、ホームページへは、全国各地からアクセスがあり、芋銭に関する質問も、同様に全国各地から寄せられ、その内容も初歩から非常に専門性の高いものまでに及んでいます。

主要事業のひとつである隔年(凡そ)開催の芋銭展は、次回で5回目となります。同展の出陳画および資料は、高水準を維持しかつ極力初公開のものを扱うことを基本としており、展覧会毎にテーマを変えているので、図録こそ薄い冊子ですが、これらを合本すれば、得がたい芋銭画集ができるよう配慮しています。顕彰事業の一環としての「小川芋銭検定」も、今年で10回目を迎えます。この間、多数の受験者があり、最難関の「特別級」合格者も3人輩出しました。合格者の方々には、学校への出前授業や、芋銭検定講座の講師を務めていただいたりと、着実に芋銭が本来の意味で牛久に根付きつつあります。また、研究成果を纏めた文献の出版にも努め、第1弾として総作品数2920点を940頁に収めた『小川芋銭全作品集』を、平成24年度末に出版しました。今年度は、『小川芋銭印譜集』を企画刊行予定です。写真は、印影および側款採拓の

様子で、中央が編集員の二見達夫氏です。二見氏は、書家であり出版業にも携わっておられたので、印影の採取法は元より、側款採拓・印文解説、本の製作法などをご指導くださったのですが、今年4月初め、急逝されました。刊行前に逸材を失ったことは、牛久にとつて本当に痛手でありました。当センターでは作品収集にも努め、最近では、河童の芋銭を代表する河童百図7点を購入、一方では、逸品を受贈したりと、芋銭コ



印影採取状況

レクシヨンも急速に充実してまいりました。皆無から出発した当センターではありますが、時の経過と共に、徐々にその存在が知られるようになりました。今では、県内外を問わず、諸所で芋銭展が計画されると、必ず当センターへ相談があり、「小川芋銭研究センター」を開設した意義は、いよいよ深いものになってきました。

小川芋銭研究センター
北畠 健

交通アクセス



◆問い合わせ先

小川芋銭研究センター

☎・FAX 828-7985

(城中町1888)

HP <http://www.ogawausen.com/>